

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

12/25 現在 CH17前兆継続のため → 12/29±の可能性否定
01/05 前兆終息が観測された場合 → 01/14±の可能性有

2008年07月初旬から約8年半と云う観測歴上最長継続前兆No.1778前兆の続報、現況報告。

現在は第22行→認識です。最終極大は12月10.2日と認識されています。その後新規出現前兆並びに新規極大も本日現在迄に観測されておりません。このことから、現在の第22行→が最終行→であり、第22行→が示す日が対応地震発生日である可能性も十分考えられます。

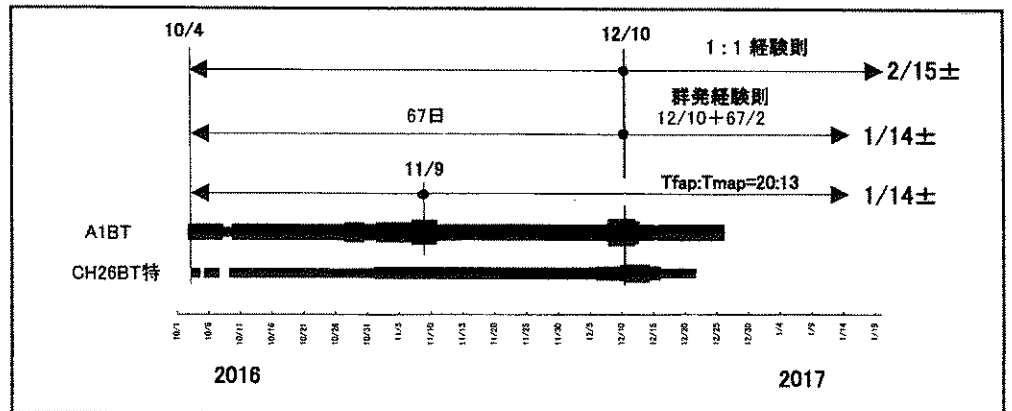
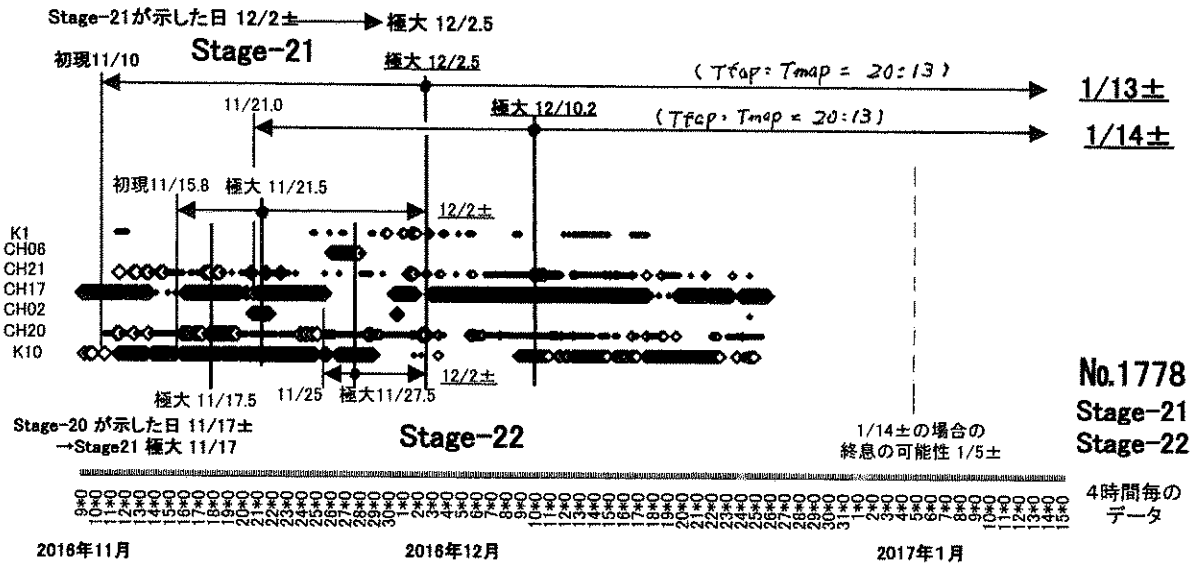
前の続報では、12月29日±又は01月13日±の2種の可能性が考えられることを報告致しました。

12月29日±の場合には、昨日24日に前兆終息が観測されることが計算されていました。本日現在、高知観測点K10 特異は静穏状態。ハヶ岳南麓のCH20, 21も静穏状態ですが、ハヶ岳のCH17のみ、糸状特異前兆が継続出現しています。

全体として前兆は極めて静穏化してはいますが、CH17のみですが前兆が継続していることから、まだ静穏期に突入したとは認識できません。従って12月29日±の可能性は否定されます。

次に考えやすい時期は既に報告のとおり、01月13日±ですが、上図のとおりCH17の特異状態から、1/14±の方が考えやすい状況です。E-mailとFAXによる日々の地震前兆検知観測情報では既に何度も報告済ですが、秋田観測点A1とハヶ岳のCH26に火山帯近傍領域の大型地震前兆が観測されており、右図のとおり、こちらも1/14±を示す関係が見えます。No.1778前兆と同じ活動を示す場合には、No.1778の対応地震が火山帯近傍であることが示唆されることとなります。

No.1778前兆対応地震が1/14±に発生となる場合には、1/5±に前兆終息が観測されることとなります。観測を続け、続報させて戴きます。



- ◆推定領域: 右図点線領域=大枠
右図太線領域内=可能性考え易い
(岐阜県~福井県領域の可能性有)
(石川南部、滋賀北部含む)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 前兆終息確認後推定
現状考え易いのは1月14日±2
- ◇推定地震種: 震源30km以浅の陸域
日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1時間
又は(午後6時±3時間)

